

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：エルビル県およびドホーク県の学校における教育環境の改善 達成度： [小学校改築事業] ・ 本事業対象校 4 校(*1)における教育環境の改善 100%達成 [小学校への備品提供] ・ 本事業対象校 4 校(*2)への備品提供 100%達成 (*1) スノバー女子中学校, ギルシン小中・高等学校, アディアン/コバルト校, ドカン中・高等学校 (*2) スノバー女子中学校, ギルシン小中・高等学校, アディアン/コバルト校, ペシュメルガ小学校
(2) 事業内容	国内避難民が通学している、あるいは通学予定のある小・中・高等学校 4 校の改築および 4 校への設備・備品の提供を実施した(詳細は別紙 1 参照のこと)。 1. エルビル市スノバー女子中学校 既存校舎の改築および設備・備品の提供 2. ドホーク県ギルシン小中・高等学校 既存校舎の改築および設備・備品の提供 3. ドホーク県アディアン/コバルト校 既存校舎の改築および設備・備品の提供 4. スレイマニヤ県ドカン中・高等学校 既存校舎の修復 5. ドホーク県ペシュメルガ小学校 学校用家具・備品の提供
(3) 達成された成果	1. スノバー女子中学校(アルビル県) 計画通り、教室、教員室の改築および設備を整備し、備品を提供して、 本校の教育環境を改善した。2016 年 4 月 25 日に開催された本校の引渡 式には、在イラク日本大使館岩井文男特命全権大使はじめ横田参事官、 木我二等書記官、エルビル県教育局長などに参列頂き、教室や設備の改 善箇所を視察頂いた。学校側からは支援に対し感謝の意が述べられた。 教師の多くが、学校の環境が改善され、生徒たちの学習意欲と態度が向 上したと評価している。試験ホールにも冷暖房機が設置されたため、集 中して試験を受けられるようになったと、生徒が話してくれたように、 本校の教育環境の向上が生徒の学習に好ましい影響を与えている。 [成果を測る指標] 直接裨益者数：生徒 334 人(うち国内避難民(以下、IDP)生徒 0 人： 現 在、IDP 生徒はまとめられ近隣校に通学しているが、現 在 1 シフト制のスノバー校は 2 シフト制となる計画であ り、2 シフト目は IDP 生徒に特化したシフトとなる予 定)、教師数 20 人

間接裨益者数： 約 22, 800 人（ティラウェ地区人口）

2. ギルシン小中・高等学校（ドホーク県）

計画通り、教室、教員室の改築および設備を整備し、備品を提供して、本校の教育環境を改善した。改築以前は、国内避難民が避難場所として滞在していたこともあり、老朽化がかなり進んでいた。「授業中に何度も天井の一部が落ちてきたことがあり、天井が崩れて生徒が被害にあうのではないかと大変心配していました。今は学校がとてもきれいで安全になり、適切な教育環境になりました。」と校長先生は語った。生徒も「天井が落ちてくるのではないかと心配する必要がなくなりました。教室も以前のように寒くないです。」と嬉しそうに答え、本事業により学習に適当な環境を整えることができたことが示唆された。

[成果を測る指標]

直接裨益者数：生徒 581 人（うち IDP 生徒 11 人、難民生徒 10 人。IDP 生徒数が減少したのは、より良い生活環境を求めて新設の IDP キャンプや難民として国外に移住していったため）、教師数 43 人

間接裨益者数：約 1, 700 人（ギルシン村人口）

3. ドホーク県アディアン/コバルト校

1987 年の設立以来、本校は最小限の修繕を一度行ったのみで校舎の老朽化が進んでいた。アディアン校の校長先生は、「本事業に教室の照明がより明るくなり、壁の塗装塗り替えにより学校が清潔で明るく見え、それが生徒たちに、時間を守り、より意欲的に集中して勉強する心理的効果を与えています。」と述べ、本事業により学校に適切な教育環境がもたらされたことを評価した。コバルト校は 2016 年 12 月以降、他の校舎に移転したが、改築終了後移転まで本校舎を使用した。コバルト校校長は「改築後は教育環境が大きく改善され、大変助かりました。移転先の校舎は他団体の支援で改築されましたが、いろいろ不備があります。改築した本校舎は必要な箇所が修繕され、とてもよかった。」と語り、弊団体の事業成果の質を評価した。

[成果を測る指標]

直接裨益者数：生徒 1, 178 人（うち IDP 生徒 164 人）、教師数 47 人

間接裨益者数：約 24, 000 人（ハンケ市人口）

4. スレイマニヤ県ドカン中・高等学校

本校は地元クルド人生徒が通う中学・高校の 2 シフト制であったが、「イスラム国」から逃れてきたアンバール県出身の IDP 生徒のうち高校生を受け入れたことで 3 シフト制となり、校舎設備の劣化や備品の修復が必要なことから、破損したドアや窓の交換、スイッチや配線の電気系統の整備、机や椅子の板の交換、壁の塗装、手洗い場の蛇口の設置などを行った。これにより、生徒が安全かつ衛生的な環境で学習に取り組めるようになった。とりわけ、学校内壁の塗装は広範囲に渡って行われ、学校側と協議し、天井扇や蛇口の設置数を調整して、計画より 65 平方メートル拡張して仕

	上げを行った。校長は、「塗装が剥がれ、くすんでいた壁が一新されたようで、校内全体がとても明るくなりました。これは確実に子どもの心理にも良い影響を与えていると思います。机や椅子も欠損や表面が削れて粗いものが多く、机や椅子用に新しい板は確保したものの、張り替え作業をできる人がいなかったで、交換できて生徒が勉強しやすくなりました」と述べ、目に見える改善に加え、それがもたらす心理的効果にも言及している。 [成果を測る指標] 直接裨益者数：生徒 637 人(うち IDP 生徒 286 人)、教職員 40 人 間接裨益者数：約 76,000 人(地域(ドカン郡)の住人及び IDP 世帯) 5. ドホーク県ペシュメルガ小学校 学校用備品・家具の提供により、新学期開始に予定どおり国内避難民を含む生徒を受け入れることができた。また、本事業により、教育環境が改善し、生徒が適切な環境で学習に意欲的に取り組めるようになった。 [成果を測る指標] 直接裨益者数：生徒 500 人(うち IDP 生徒 20 人)、教職員 9 人 間接裨益者数：3,000 人(地域の住人及び IDP 世帯) 直接裨益者 計：生徒 3,230 人(うち IDP 生徒 481 人)、教職員 159 人 間接裨益者 計：約 127,500 人
(4) 持続発展性	本事業により改築された校舎は、完成後に管轄の教育局に引き渡され、同教育局の責任のもと、教育局予算にて維持管理が行われる。また、日常的な維持管理については、校長、教職員、保護者、地域住民から成る地元組織が中心となり行う。弊団体は、校舎を教育局へ引き渡した後、6ヶ月間モニタリングを行う。モニタリング期間内に、校舎に不具合が生じていると判明した場合には、担当業者が責任を持って修繕する。